

カンファレンスコール開催日:2026 年 8 月 10 日

## 2027 年 3 月期(2026 年度)第 1 四半期決算 カンファレンスコール 内容説明スクリプト

### I. 全般概況

本日発表いたしました 2026 年度第 1 四半期連結決算および 2026 年度連結業績予想の概要についてご説明いたします。なお、当社をとりまく事業環境や全般的な概況等につきましては、決算短信や決算説明資料の 2 ページ、3 ページに記載しておりますので、のちほどご覧ください。

#### 1. トピックス:中東情勢の影響について

説明資料の 4 ページをご覧ください。2026 年度第 1 四半期決算および業績予想をご説明する前に、その前提となる中東情勢の影響についてご説明します。

2026 年度第1四半期においては、ビジネスパートナーの協力もあり、生産や販売に大きな影響はありませんでした。しかし、エネルギーを含む操業用資材等の価格は上昇し、高止まりした状態が続いています。

現在も先行きの不確実性が高い状況が続いており、5 月発表時と同様、事態が長期に及んだ場合には影響が大きくなると見込んでいます。引き続き、原料や操業用資材の安定調達にむけ、ビジネスパートナーと協力して取り組み、製品の安定供給に努めるとともに、コスト上昇分の転嫁についても鋭意交渉を行ってまいります。

説明資料の5ページをご覧ください。

このような状況の中、今回(8 月)の業績予想にあたり、あらためて中東情勢により想定される影響を試算した結果、影響額は前回(5 月)の業績予想と同水準の約 200 億円となりました。

ただし、セグメント別およびコスト要素別の内訳が変わっており、右側の円グラフのとおり、今回(8 月)予想では、セグメント別では資源が 5 割、製錬が 5 割となっており、コスト要素別ではエネルギーで 5 割、エネルギー以外で 5 割となっています。

また、この影響額は、前回(5 月)の業績予想では「その他」に織り込んでいましたが、今回(8 月)の業績予想では、各セグメントの「コスト」に織り込んでいます。

なお、この影響額は、今回も、JVパートナーであるオペレーターの見通しではなく、当社の見通しであることにご留意ください。

#### 2. 2027 年 3 月期(2026 年度)第 1 四半期 連結決算 業績概要

それでは、2026 年度第 1 四半期の連結決算の概況をご説明します。説明資料の 10 ページをご覧ください。

2026 年度第 1 四半期の金属価格および為替レートの実績についてご説明します。左下の表をご覧ください。

3 月決算会社に適用される 4-6 月平均の銅価格、金価格、ニッケル価格は上昇、為替は円安となりました。

12 月決算会社に適用される 1-3 月平均価格についても、銅と金の価格は上昇、為替は円安となりました。

10 ページ上段のグラフでお示ししている通り、連結税引前利益は、前年同期間に比べ、801 億円の増益となる、1,180 億円となりました。

増益の主な要因は、銅、金、ニッケルといった主要金属価格の上昇、加えて為替が円安基調で推移したことによる在庫評価影響の増加、また材料事業の好転などです。

### 3. 2027 年 3 月期(2026 年度)連結業績予想

次に、今回上方修正を行いました 2026 年度の連結業績予想の概況をご説明します。説明資料の 15 ページをご覧ください。

#### 1)前提となる金属価格、為替レートについて

業績予想の前提とした金属価格および為替レートについてご説明します。左下の表をご覧ください。

3 月決算会社に適用される 4-3 月平均の銅・金・ニッケルの価格は上昇、為替は円安と想定しています。

12 月決算会社に適用される 1-12 月平均の銅と金価格は上昇、為替は円安と想定しています。

#### 2)業績予想について

この前提のもとで見直した今回の業績予想では、連結税引前利益は、3,240 億円と、前回 5 月予想から 950 億円の増益を予想しています。

主な増減要因は 15 ページ上段のグラフでお示ししているとおり、価格条件差、為替差、在庫評価影響が損益を押し上げると予想しています。

また、今回、材料セグメントの損益が 140 億円好転していますが、これは、電池材料の Hi-Ni 系 NMC への切り替え時期について、見通しを変更したことによるものです。具体的には、これまでは「2026 年度中の切り替え」としてきましたが、「2027 年度以降での切り替え」に変更しています。これに伴い、切り替えに伴う販売量の減少は 2027 年度以降となる見込みです。

コスト単価差については、-426 億円と大きく悪化しています。こちらの大きな要因を2点、ご説明します。

まず1つ目は、先ほどご説明した、中東情勢をうけたエネルギーを含む操業用資材等の価格上昇の影響約 200 億円について、5 月予想では「その他」としていましたが、8 月予想では各セグメントの「コスト」に織り込んだことによるものです。

また、グラフにお示ししている「その他」の好転には、当社銅製錬事業で製造した硫酸価格上昇の影響が含まれますが、その硫酸を使用しているニッケル製錬事業のフィリピン HPAL2 拠点の「コスト単価差」の悪化につながっています。

ニッケル製錬事業において硫酸は重要な操業用資材です。硫酸市況がひっ迫する中、当社グループ内の銅製錬から安定的に供給を受けられることは、当社ニッケル製錬の大きな強みです。また、こうした事業間の有機的な連携が、当社グループの競争力の一つであると考えています。

なお、「その他」には、今回の業績予想から今年度中に発現する可能性がある減益要因「リスク要因」を織り込んでいます。

### 4. 2026 年度 実力損益(業績予想ベース)

説明資料 15 ページのグラフの右端に、2026 年度の「実力損益」の予想を掲載しています。これは、業績予想から、金属価格や為替の変動局面において発生する要因と、その他の特殊要因を除いたものです。

今回の業績予想における 2026 年度の実力損益は、前回から 700 億円の上方修正となる「3,100～3,000 億円」と想定しています。金属価格の上昇や円安といった外部要因の好転の他、堅調な材料事業の貢献などがその要因です。

今回の業績予想の税引前利益 3,240 億円は、今回の業績予想をベースとした実力損益を上回っています。これは、金属価格の上昇や円安の進行局面に生じる一時的な要因、例えばグラフ中ほどにお示ししている「在庫評価影響」等によるものです。当社の事業特性上、前提となる金属価格や為替の変動等に応じた実力損益の変動は避けられないものですが、それぞれの前提条件のもとで利益を最大化するべく、引き続き、安定操業の維持、生産効率の向上、および成長戦略の推進に取り組んでまいります。

## II. 売上総利益、セグメント利益の内訳他の詳細

ここからは、説明資料にもとづき、ポイントとなる部分のみご説明いたします。

### 1. 2026 年度第 1 四半期決算 vs 2025 年度第 1 四半期決算

まず 2026 年度第 1 四半期決算と 2025 年度第 1 四半期決算の比較について説明します。

#### 1) 27 ページ 実績比較 資源セグメント

それでは、説明資料の 27 ページ 損益分析 セグメント別-1をご覧ください。

まず資源セグメントの売上総利益について説明します。ページ左上「売上総利益」のボックスをご覧ください。

【資源セグメントの売上総利益】 517 億円(270 億円の増益)となりました。

##### ① 菱刈鉱山(3 月決算)

サステナビリティ重視の操業方針に従い、平均品位での採掘を行っており、2026 年度も、年間販売量を 3.5t/年とし、計画的に操業を行っています。2025 年度同期間と比べ、金価格の上昇により価格差が好転しています。

##### ② コテ金鉱山(12 月決算会社)

コテ金鉱山も、金価格の上昇の追い風を享受しました。

なお、コスト単価差-18 億円については、2026 年第 1 四半期に発生した設備不調への対応等によるものです。なお、第 2 四半期中に対応を終え、現在は通常の操業に戻っています。

##### ③ 海外銅鉱山(おもにモレンシー銅鉱山:12 月決算会社)

モレンシー銅鉱山は、概ね計画通りの操業を行い、12 月決算会社に適用される 1-3 月の銅価格の上昇により価格差が好転しました。

次に持分法投資損益について説明します。

##### ① セロ・バルデ銅鉱山、カンデラリア銅鉱山(いずれも 12 月決算会社)

主に 12 月決算会社に適用される 1-3 月の銅価格上昇により価格差が好転し、いずれも増益となりました。

##### ② ケブラダ・ブランカ銅鉱山(12 月決算会社)

概ね計画通りの操業を行い、12 月決算会社に適用される 1-3 月の銅価格上昇により価格差が好転し、増益となりました。なお、当該期間における尾鉱堆積設備への対策も計画通りに進みました。

次にセグメント損益について、1点、補足します。

ケブラダ・ブランカ銅鉱山開発に際し、当社が現地の銅鉱山運営会社に対して必要資金の融資を行っており、その融資に対する受取金利が、2026 年度、2025 年度ともに含まれています。

## 2)28 ページ 実績比較 製錬セグメント

それでは、説明資料の 28 ページ 損益分析 セグメント別－2をご覧ください。  
次に製錬セグメントについて説明します。ページ左上「売上総利益」のボックスをご覧ください。  
【製錬セグメントの売上総利益】 408 億円(373 億円の増益)となりました。

### ①銅系

#### a) 好転要因:

- ・価格条件差 :加工収入(TC/RC)は悪化したが、販売プレミアムが上昇。
- ・在庫評価 :為替の円安進行、金属価格の上昇。
- ・その他 :副産品(硫酸など)の価格の上昇等。

なお、硫酸価格の上昇は、銅系では利益に貢献するが、硫酸はフィリピンの HPAL における主要操業用資材のため、ニッケル系ではコスト単価の悪化につながる

#### b) 悪化要因:

- ・数量差、コスト単価差:設備不調による減産減販の影響等

### ②ニッケル系

#### a) 好転要因:

- ・価格条件差 :ニッケル、コバルト価格の上昇。  
→ニッケル系は、加工収入が金属価格に連動する「シェアリング」という制度が適用されるため、金属価格の変動が業績に大きな影響を与える。
- ・在庫評価 :為替の円安進行、金属価格の上昇。

#### b) 悪化要因:

- ・コスト単価差 :硫酸などの主要操業資材単価の上昇など。

## 3)29 ページ 実績比較 材料セグメント

それでは、説明資料の 29 ページ 損益分析 セグメント別－3をご覧ください。  
材料事業の製品群別売上高です。  
電池材料については、前年度と同水準の操業を維持し、加えて、販売価格に連動する金属価格が上がったため、増収となりました。  
機能性材料については、データセンター関連の電子部品向け部材(粉体材料、デバイス材料)が堅調に推移し、増収となりました。

次にセグメント損益について説明します。

機能性材料事業は、データセンター関連の電子部品向け部材(粉体材料、デバイス材料)等の需要が堅調であったため、増益となりました。

## 2. 2026 年度 8 月予想 vs 2026 年度 5 月予想

続いて、2026 年度の今回予想(8 月予想)と前回予想(5 月予想)の比較について説明します。

### 1)30 ページ 損益分析

今回の業績予想の前提となる金属価格や為替をご説明します。

説明資料 30 ページ 右上のボックス、金属価格・為替平均価格をご覧ください。

2026 年度 8 月予想の前提となる金属価格と為替です。まず、一番右の列をご覧ください。

7 月以降、銅は 12,500\$/t、ニッケルは 7.5\$/lb、金は 4,100\$/toz、為替は 160 円/米ドルと  
しています。そして、左から 2 列目がそれを踏まえた 8 月通期予想の前提となる価格と為替です。5 月  
通期予想と比べ、銅の価格は上昇、ニッケルと金の価格は同水準、為替は円安水準での推移を想定して  
います。

先ほど説明したとおり、今回の 8 月予想では、あらためてエネルギーを含む操業用資材等の価格上昇  
の影響を踏まえて試算し、各セグメントの「コスト」に織り込んでいます。具体的には、影響額は 5 月業績  
予想と同じく 200 億円です。内訳等の詳細は資料4ページ、5 ページをご覧ください。

### 2)31 ページ 予想比較 資源セグメント

説明資料の 31 ページ 損益分析 セグメント別-1をご覧ください。

資源セグメントの売上総利益について説明します。ページ左上「売上総利益」のボックスをご覧ください。

【資源セグメントの売上総利益】1,790 億円(330 億円の増益)と予想しています。

#### ①菱刈鉱山(3 月決算)、コテ金鉱山(12 月決算)

いずれも、金価格の上昇による価格差の好転を予想しています。

菱刈鉱山は、2026 年度も年間販売量を 3.5t/年とし、計画的に操業を行います。

コテ金鉱山も、年間販売量は 5 月予想と同水準を見込んでいます。

#### ②海外銅鉱山(おもにモレンシー銅鉱山:12 月決算会社)

モレンシー銅鉱山は、銅価格の上昇により価格差の好転を予想しています。コスト単価差は、エネ  
ルギーを含む操業用資材の価格の上昇により、悪化を見込んでいます。

その他/調整の「+121 億円」について説明します。

5 月業績予想時点では、こちらに持分法会社を含めた中東情勢影響額(約 150 億円)を織り込んで  
いましたが、先ほどご説明したとおり、8 月予想では「コスト」として織り込んだことによる好転です。

次に持分法投資損益について説明します。

#### ①セロ・バルデ銅鉱山、ケブラダ・ブランカ銅鉱山、カンデラリア銅鉱山(12 月決算会社)

各鉱山ともにエネルギーを含む操業用資材の価格上昇の影響はありますが、銅価格の上昇によ  
る価格差の好転により、増益を見込んでいます。

ケブラダ・ブランカ銅鉱山は、JV パートナーと協力し、現在進めている尾鉱堆積設備への対応を  
進め、操業の安定化に引き続き取り組んでまいります。

### 3)32 ページ 予想比較 製錬セグメント

説明資料の 32 ページ 損益分析 セグメント別ー2をご覧ください。

次に製錬セグメントについて説明します。ページ左上「売上総利益」のボックスをご覧ください。

【製錬セグメントの売上総利益】 1,030 億円(350 億円の増益)と予想しています。

#### ①銅系

##### a) 好転要因

・在庫評価 : 為替の円安水準での推移を想定

・その他 : 主に硫酸等の副産品の価格上昇を想定

なお、硫酸価格の上昇は、銅系では利益に貢献するが、硫酸はフィリピンの HPAL における主要操業用資材のため、ニッケル系ではコスト単価の悪化につながる。

##### b) 悪化要因

・数量、コスト単価差 : 主に第1四半期に発生した設備不調による減産減販の影響。

#### ②ニッケル系

##### a) 好転要因

・価格条件差 : 金属価格の上昇を想定

##### b) 悪化要因

・コスト単価差 : 硫酸等の操業用資材の価格上昇を想定

その他/調整の「75 億円」について説明します。

5 月業績予想時点では、中東情勢影響額(約 50 億円)を織り込んでいましたが、先ほどご説明したとおり、8 月予想では「コスト」として織り込んだことによる好転です。

### 4)33 ページ 材料事業セグメント

説明資料の 33 ページ 損益分析 セグメント別ー3をご覧ください。

最後に材料セグメントについて説明します。

まず電池材料事業については、先ほどご説明したとおり、これまでと想定を変更しています。

詳細は申し上げられませんが、現在の主力製品である NCA から新品種である High-Ni 系 NMC への切り替え時期の想定を 2026 年度中から 2027 年度以降としました。そのため、業績予想についても、当初想定していた 2026 年度中の NCA の販売数量の減少の影響が小さくなり、切替費用についても 2026 年度中の発生額が少なくなる前提で修正しています。

足元では、事業の立て直しにむけ、コスト削減や生産体制の見直しを進めています。今後の市場成長を見据え、引き続き、要素技術の開発、生産性の改善、正極材の性能向上、コスト削減など競争力の強化に努めてまいります。

機能性材料事業については、電子部品市場における需要には濃淡がありますが、全体としては、前年度同様、データセンター関連の電子部品向け部材(主にデバイス材料、粉体材料)の堅調な推移を見込んでいます。

以 上